

「ムサコ」タワマン続々 再開発の波

東京に調査に行ったあと、武蔵小杉のタワーマンションについて投稿した。するとFB仲間から、「タモリ倶楽部」で武蔵小金井と武蔵小山、真のムサコ決定戦という情報をもらった。「ムサコ」に関心があるのはタワマンである。図書館でコピーしておいた東京新聞2018年8月4日夕刊記事を抜粋して紹介したい。いま執筆中のテーマにも関係する。

JR 山手線目黒駅から東急目黒線で2駅目。武蔵小山駅前には巨大建設現場となっている。地上41階建てのマンション2棟が着工し、別に2つのタワーマンションを想定した再開発準備組合が設立された。一帯は「りゅえる（フランス語で小路の意味）」と名づけられた飲食店街だった。「何百って店が消えちゃった。スナックがたくさんあった」。不動産を営む男性が振り返る。

戦後の闇市時代から発展を遂げ、道が狭くて木造住宅が密集。再開発は地域の願이었다。商店街振興組合の半田忠久理事長(56)は「火が出たら全部燃えると言われていた。安全なまちづくりが必要だった」

ただ、急激な変化を心配する声もある。8駅先の「川崎のムサコ」、武蔵小杉駅周辺の住民だ。武蔵小杉は約10年前、工場地帯跡地から再開発が本格化し、40階超のマンションが10棟以上立った。家族連れや若者が訪れるショッピングセンターができ、緑地が増える一方で、ビル風や日照問題、駅の混雑や保育園不足が深刻化。「小杉・丸子まちづくりの会」の橋本稔さん(74)は「近所の保育園に入れず、都心まで満員電車の中を子ども連れで通う親もいる」。別々の業者がビルをばらばらに建設していることが問題を招いている。「個々の開発は法的に問題なくても、ビル風や日照問題は複合的に起こる、武蔵小山もそうならないか……」

武蔵小山ではタワマン4棟で6千人の人口増が見込まれる。東急電鉄の担当者は「武蔵小山駅は、現行の6両から8両化に対応できるように設計してある」と説明。保育園は品川区が4月に3園を新設したほか、再開発地域に1園をつくることになっている。

(2019年5月4日)

